

資

料

飯山地区

【新町】

綱切橋：川中島の戦いで敗れた上杉謙信が武田信玄の追っ手に追われてきた折、渡しを綱を切って追跡をのがれ、春日山に帰り着くことができたという言い伝えより名付けられた橋。

九兵衛地蔵（くへえじぞう）：天保飯山騒動の首謀者として処刑された西原九兵衛を偲んで建てられたとも言われている。九兵衛が残した辞世の句は、「清濁の分からぬ娑婆をけふ立ちて弥陀の浄土にすめる嬉しさ」とされている。真実や正義が覆い隠されてしまう世の中への無念の思いが感じられる。

太刀：幕末の信州の刀工山浦真雄の作品で、県宝に指定されている。

【上町】

真宗寺：名刹真宗寺は、島崎藤村の小説『破戒』の全編に出てくる蓮華寺のモデルとして知られており、境内の庭の隅にはその小説の一節を読んだ文学碑がある。下に記してある飯山町の大火に見舞われ、現在は経蔵のみが往時の名残を留めている。寺の方便法身尊形（ほうべんぼっしんそんぎょう）は市の有形文化財に指定されている。



方便法身尊形

飯山町の大火：戦後、飯山町内で起きた三つの大火の内、最も被害の大きかったのが、昭和 27 年 5 月 18 日の大火である。火災で焼失した棟数は町全体で 117 にのぼり、上町では、真宗寺・善覚寺・西勝寺、その他住宅多数が被災した。その後、防災のための都市計画がなされ、25m 道路等が造られた。

【本町】

六斎市：飯山城下町で江戸時代に 2 と 6 のつく日に開かれていた市（いち）の名称。現在、本町の「ぶらり広場」で行われている。



買い物客で賑わう六斎市

道路元標：路線の起点・終点または経過地を表示する標識。

各市町村に 1 個ずつ置かれている。「下水内郡飯山町道路元標」は、本町中央、現在のタケヤ横にある。

市神社：商業の発展とその場の安全を守る神として信じられている。村の境や四つ辻など、境界を示す場所に祀られていることが多い。本町中央、中央堂横のものは、1718（享保 3）年には既にあった。

【奈良沢】

西敬寺：木造伝聖徳太子立像の伝来についての詳細は不明だが、平安時代後期の穏やかな作風が認められる。この像は市内の



市神社

聖徳太子信仰を物語る貴重なもので、県宝に指定されている。

奈良沢神社：大天狗舞が毎年 9 月中旬の土・日に行われている。

2.5 寸ほどの松明を持ち、天狗が舞う姿は勇壮である。

ハス田：忠恩寺の裏手にあり、水田を利用してつくられている。

2000 年以上前の種から発芽したといういわれをもつ大賀ハスをはじめ、何種類ものハスがきれいな花を咲かせる。市民グループが運営している。

忠恩寺：歴代飯山藩主の菩提寺である。寺にある黒本尊阿弥陀如来像と本田豊後守康重候画像は、共に市の有形文化財に指定されている。

飯山変電所：明治 43 年 4 月上越電気株式会社飯山出張所として開設され、奈良沢の変電所を起点として飯山町へ電灯が入った。

【上倉】

恵端禅師旧跡（正受庵）：正受老人の修行の場であり、また住んでいたところとして全国的に有名である。県の史跡に指定されている。ここで弟子の白隠禅師が修行を積んだ。他に市の有形文化財として 10 点が指定されている。

【福寿町】

「飯山港の跡」碑：千曲川を往来する通船による運送は江戸時代からあった。峠道を人馬で運ぶよりもかなり効率的であり、主として生活物資を運んでいたが、時には旅客も乗せていた。明治 21 年の信越線の開通により衰退していった。碑の辺りは荷物の積みおろしの場所であった。

飯山城下町絵図：写しも含め 20 面近くあるが、松平時代の絵図は江戸前期の城下町の景観や発展過程を知る上で貴重である。市の有形文化財で、飯山小学校にある。

【田町】

飯山城跡：上杉謙信が自分の領地である越後を守るために造った城である。江戸時代には飯山藩の藩主の居城として、支配した大名家は何家も代わったが明治まで続いた。県の史跡に指定されている。

雪まつり：雪を資源として地域の活性化を図ろうと、飯山雪まつり市民協議会が主催し、毎年 2 月に行われている。中学生の書いた「飯山の町を雪だるまで一杯にしたら」という作文がきっかけだった。昭和 58 年に当時の飯山商工会館（現在の飯山トヨタ北側）付近の田んぼに大きな雪だるまと新幹線を作ったのが最初である。

【愛宕町】

雁木通り：「寺の街並み事業」が完了し、雁木が生まれ変わった。沿道には花をあしらって潤いのある景観を



大賀ハス



正受庵



飯山雪まつり（秋津の雪だるま）

創り出している。平成 14 年に国から「美しいまちなみ大賞」を受賞した。また、通りの両側に仏壇店が軒を連ね、西側には寺社 が並んでいることから、寺町・仏壇通りとしても知られる。

妙専寺：明治 45 年に高田でスキー講習を受けた飯山中学校の教師で寺の住職の市川達譲が、長野県に初めてスキーを伝えた。寺内の敷地には銅像等がある。

大輪院（だいらんいん）：市有形文化財指定の木造天部立像（もくぞうてんぶりゅうぞう）は四天王のうち増長天と考えられている。室町時代後半の作と推定される。

【神明町】

伊勢社：伊勢社は神明社とも呼ばれている。かつて伊勢社のある町を伊勢町と呼んでいたが、今は神明社の方をとって神明町と言っている。この伊勢社のお祭りには、お宮の境内に茅の輪が作られる。

大聖寺（だいしょうじ）：1847 年に起きた善光寺地震では、飯山藩で 1500 人余の犠牲者を出した。その供養のために、有尾の黄金石地籍から石を運んでつくった黄金石地藏尊が本堂石段前に安置してある。

本光寺：飯山城が築かれた頃、岩井備中守信能が居城山口城にあった七面大明神を飯山に移したのが寺の始まりとなる。平用水を拓いた野田喜左衛門の墓がある。

【市ノ口】

英岩寺：鬼小島弥太郎の墓がある。弥太郎は上杉謙信の小さい頃からの家来で、豪傑として「鬼小島」と恐れられたという。実在したかどうか定かではない。

須田ヶ峯遺跡：昭和 40 年県営団地造成に関わって、県下で初めての方形周溝墓が発見された。これらは弥生時代後期のものである。さらに、縄文中期や古墳時代前期の住居址や土器が大量に発見された。市の史跡に指定されている。

【有尾】

飯笠山神社：元々は今の城山にあったが、戦国時代の上杉謙信が飯山城を造る際に現在の地に移した。後に、歴代の飯山藩主はこの神社を守った。飯山の地名もここから来ていると伝わっている。

有尾古墳：秋津荒船の勘介山古墳、同北畑の法伝寺 2 号古墳に次ぐ三番目の前方後方墳である。飯山市の古墳時代の始まりを研究する上で貴重なものである。

【斑尾】

清川の源流：スキー場最上部グレンデ左側に源流となる水穴が 2 カ所ある。水量は少ないが 1 年中絶えない。「下の水穴」に源流を示す小さな石碑がある。

斑尾高原の開発：斑尾高原開発の目的は、元々は自然を有効に活用して地域振興と住民福祉を向上させようというものであった。藤田観光開発株式会社によって開発が進められ、昭和 47 年にスキー場が開設された。平成 4 年には飯山市を訪れる観光客の半分がこの高原を訪れており、飯山市の地域経済に与える影響は大きかった。



花フェスタで賑わう雁木通り



斑尾高原スキー場

秋津地区

【上組】

善光寺地震調査：今から 20 年ほど前、蓮地籍にある秋津郵便局の近くの水田を 10 ㍍の深さまでボーリングして調べた結果、善光寺地震のような大きな地震が 950 年に 1 回の間隔で起きていると推定された。この調査結果は当時の地震学会で大変注目された。

【中山根】

信國豊濃神社（しんこくゆたかのじんじゃ）：欄間彫刻が見事な上組、中山根・伍位野の 2 台の屋台が奉納される。下記静間神社に奉納される 3 台の屋台と共に、市有形民俗文化財に指定されている。

【荒船】

勘助山古墳：飯山地域で初めて発見された前方後方墳である。古墳時代前期と考えられ、県の史跡に指定されている。

【大久保】

山の神遺跡：ほ場整備の折、多数の土器片や石器が発見された。

その一つの魚形線刻画土器片（うおがたせんこくがどきへん）は、縄文時代の漁撈活動の一端を示す貴重な資料として市の有形文化財に指定されている。

秋津小学校のイロハモミジ：明治 38 年、学校ができた時に地域の人が寄付したものだといわれている。大変古い木で、所々の空洞にウレタン樹脂を詰めて保護している。市の天然記念物に指定されている。

大久保のサルスベリ：市内には大木のサルスベリ 3 本があるが、その中で最も大きい。樹齢推定 200 年以上で、市の天然記念物に指定されている。

清川からの取水方法の取り決め：静間の各集落では、用水を清川に求めていて、取り入れ口は上流より大久保「石止め」、北畑「粗朶（そだ）止め」、中町「土嚢止め」とすることが、不文律で現在も守られている。

【中町】

舟入り地蔵：お地蔵様が舟に乗っているというのは、飯山でただ一つである。水難よけ、子育て、安産等にご利益があるといわれている。

静間神社：昔の書物（保元物語・平治物語）に出てくる「志妻小次郎」及び「閑妻六郎」の館の跡と伝えられている。祭礼の晩の夜宮には、大久保・中町・北畑の屋台がそれぞれ奉納される。その姿は勇壮である。

【北畑】

法伝寺 2 号古墳：飯山地域で二番目に発見された前方後方墳で、市の史跡に指定されている。



秋津小学校のイロハモミジ



舟入り地蔵

木島地区

【其綿】

流れゴ一口：塔の原林道から続く虚空蔵山の西側山腹に、大小無数の岩が重なって露出している。かつては藤の花の名所だった。

其綿水源：昔からの清水を活用して、飯山市の上水道の水源となった。飯山市内には木島水源の他に太田、外様、柳原、瑞穂、秋津等がある。これらは全て地下水である。

【吉】

木島水源：其綿水源と同じ、昔からの清水を活用した。

愛宕さん：お地蔵様の供養が、毎年7月23日に子ども中心で行われる。木島で吉だけに伝わる行事である。

【上新田】

揚水ポンプ：村が根越堰（せぎ）の末端にあるため、水不足に苦しむことが度々あった。大正13年に石油発動機による千曲川からの灌漑用水の汲み上げが始まった。今は使われなくなって、堤防外の伊勢社の敷地近くに置いてある。



其綿ポンプ場

金比羅様：伊勢社南側に小さな祠がポツンとある。安永6

（1778）年、毎年の旱魃と水害で困窮していた農民が名主宅を襲う。首謀者の藤助は、野坂田の治部左衛門とともに死刑にされた。上新田の人々は、藤助の霊を密かに金比羅様として祀ったと伝えられており、今も藤助の末裔を招いて供養している。治部左衛門の墓は、上町の真宗寺境内にある。また、綱切橋東詰には二人の供養地蔵とされる横吹地蔵尊がある。

【坂井】

坂井芋：坂井集落周辺は昔から水害の多い地域であるため、数少ない安定作物として江戸時代から多くの家庭で栽培されてきた。洪水による肥沃な土壌であるため良質な芋が収穫できる。近年では治水整備が進んだため、芋以外にも安定作物が増加し、相対的に芋の栽培量は減少しているが、生産者達は坂井芋のブランド化をめざしている。「信州の伝統野菜」に認定されている。

【天神堂】

天神堂の畜魂碑：飯山での大洪水は、昭和に入ってからでも20年、34年、57年、58年と続き、市内の千曲川に面した各地域の人々は水害と闘ってきた。天満宮裏手には、昭和57年の洪水で溺死した203頭の牛を祀った碑がある。



天神堂の畜魂碑

鳥出神社：和算家が数学の問題を書いて神社に奉納した算額があり、市の有形文化財に指定されている。境内にある大ケヤキは、元は県指定の天然記念物であった。

瑞穂地区

【中組】

犬飼神社：中世における犬飼郷の範囲は、変遷はあったが、北は小菅に接し、南は馬曲川（まぐせがわ）を境とする地域と推定されている。境内には市内最大のカツラの大木があり、市の天然記念物に指定されている。その南西 100 ㍍には、高梨氏の館があった。跡地には八幡社が祀られている。

【福島】

棚田：平成 10 年に地元の有志が「三部の会」を結成し、荒れて

いた棚田を蘇らせた。その努力が実り、平成 11 年に農林水産省から、全国 117 市町村 134 地区の棚田の一つとして「日本の棚田百選」に選ばれた。石垣の組み方や水の回し方が非常に工夫されている。

万仏山観音石像及び本尊：福島神社から万仏岩までの登山道に沿って、三十三観音像が祀られている。万仏岩の洞穴に大日如来坐像と弘法大師坐像がある。いずれも市の有形民俗文化財に指定されている。

阿弥陀堂：映画「阿弥陀堂だより」の舞台になったロケ地で、ロケセットが保存されている。

【神戸】

宮中遺跡：遺物は旧石器時代から平安時代までの各時期が見られる。特に丘陵の南半分に遺物がたくさん分布している。遺構としては縄文時代後期の 23 基の石棺墓が際だつ。

菜の花の丘：昭和 59 年 5 月 13 日に始まったいいやま菜の花まつりは毎年行われ、現在では北信濃の春を代表するイベントになっている。平成 4 年に発足した「菜の花さかせるかい」が遊休農地を活用した大規模な菜の花畑づくりに取り組み組んでいることもあり、春には丘一帯が黄色に染まる。また、この辺りにある木々は、ざっと見ただけでも、広葉樹や針葉樹が 30 種類ほどある。それぞれの根元には、ていねいに名札が立てられている。

神戸のイチョウ：樹齢約 700 年の県下有数の巨木で、県の天然記念物に指定されている。このようなイチョウの巨木は全国的にも珍しい。

【関沢】

阿弥陀如来立像（あみだによらいりゅうどう）：十王堂には、寄木造の本立像が地蔵菩薩像と十王像と一緒に安置されている。室町時代初期の作であり、市の有形文化財に指定されている。お堂には普段鍵が掛かっていて入ることはできないが、縁日には多くの人が訪れる。この南側には庚申塔が建てられている。



福島の棚田



阿弥陀堂



神戸のイチョウ

太子林遺跡：旧石器時代の遺跡であり、ここで発見された石器群は 25,000 年前のもので、飯山最古のものと考えられている。当地の旧石器時代を考える上でこの遺跡は重要である。

【小菅】

阿弥陀三尊像：江戸時代のもので、講堂と共に近世に至っても小菅山が繁栄していたことを物語っている。市の有形文化財に指定されている。

菩提院：小菅山信仰が最も隆盛した時期の作で、県宝の絹本着色両界曼荼羅図（けんぼんちゃくしよくりょうかいまんだらず）が 2 点の市の有形文化財と共にある。また、近くには、市の天然記念物のイトザクラとヤマグワがある。

柱松行事：昭和 52 年に、小菅神社柱松柴灯神事（はしらまつさいとうしんじ）が県の無形民俗文化財に指定された。3 年に一度、7 月の半ばの日曜日に開催される。祭りのクライマックスは東西に建てられた高さ 4m の柱松のどちらが早く点火できるかを競い合うところである。東（上）が早ければ天下泰平、西（下）が早ければ五穀豊穡になると言われている。

庚申塔等：村の入り口にある石像物は、かつては仁王門付近にあったものであるが、ほ場整備によりここに移動したという。

小菅神社：明治維新までは小菅山元隆寺といい、戸隠・飯縄とともに修験の道場として著名な寺であった。奥社は、国の重要文化財に指定されている。奥社参道の両側には 600m にわたって 180 本の杉並木があり、県の天然記念物に指定されている。小菅区の上端部にある神社入り口から奥社までは、徒歩約 1 時間内の行程である。

小菅神社宝物庫：県宝の桐竹鳳凰文透彫奥社脇立（きりたけほうおうもんすかしぼりおくしゃわきたて）と板絵著色観音三十三身図、市指定の絵馬、花鳥之図、馬頭観世音菩薩坐像がある。また、大聖院跡地は、当時の繁栄を伝えていて、市の史跡に指定されている。

北竜湖断層：この活断層の断層線上の凹地にできた湖や池が、南竜池・蓮池・北竜湖である。ただし、南竜池には水はなく、田畑や道路になっている。

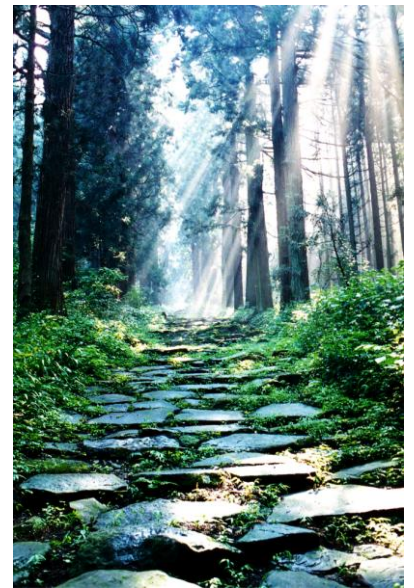
風切峠：神戸から小菅集落への峠を言う。馬頭観音はじめ村の守り神として、多くの石像物の中に大風を切り穏やかな村にしようとした高さ 74 cm の風の神の石祠がある。

桂清水：小菅七清水の一つとされている。ここ小菅に限らず、瑞穂には清水が多い。ここの道を行くと風切峠に向かう。

【柏尾】

日焼遺跡：国道 117 号バイパス建設にともない、昭和 63 年に発掘調査が行われた。その結果、旧石器時代の遺物 1992 点と 6 カ所の遺物分布集中域が見つかり、規模の大きな旧石器時代の遺跡であることが分かった。

【北原】



小菅神社奥社参道



南竜池より風切峠を望む

北原区ふるさと暮らし支援委員会：区の有志9人ほどで組織している。UターンやIターンを進めるための「ふるさと暮らし学校」の運営をしたり、配られた新聞が外から見える新聞箱「命を守る新聞箱」を全戸に設置したりして、村の活性化を目指している。

柳原地区

【大平】

沼池のヤエガワカンバ：北信地域唯一のもので、希少価値が高い。市の天然記念物に指定されている。

【藤ノ木】

御旧跡：親鸞聖人・蓮如上人の旅の休憩場所として伝わっている。以後、住民が守り、市の史跡に指定されている。

【山口】

山口城跡：後に飯山城代となった岩井氏が、天文年間に築城したといわれる。跡地には、岩井備中守信能（いわいびつちゅうのかみのぶよし）を祀った祠がある。

【南条】

北原遺跡：平安時代に大規模な鉄生産に関わる工房が存在した。この時代に鉄を生産する技術があり、鉄を必要とする人たちがいたことを示している。

素盞鳴社（すさのおしゃ）：南条に悪疫が流行した時、住民が

当社を創立し、悪疫退治の祈願をしたところ、すぐに治まったと言われている。祭神は素盞鳴尊。

正行寺：浄土真宗本願寺派の名刹である。山門を入ったところにあるイチョウは、県指定の神戸のイチョウに次ぐもので、市指定の天然記念物である。

【大川】

大川のイチョウ：雌株としては市内で最も大きい。因みに、神戸と正行寺のイチョウは雄株である。市の天然記念物に指定されている。

【涌井】

飯山炭坑：石炭に比べて質は落ち発熱量は低い、火つきが良いため、昭和30年代の中頃までは盛んに採掘され、燃料として利用された。市内の小中学校でも暖房用の燃料として使われていた。採炭場所は、関屋、大川、硫黄、秋津地区の屋敷、柳久保等々、広く分布している。現在は全て廃坑となっている。



桂清水



藤ノ木の御旧跡

富倉地区

石油・天然ガス：当地域ではいたる所で油兆、天然ガスの兆候が見られる。石油は濁池、中野、松沢の3カ所

で兆候が認められる。採掘は明治 20 年頃から行われ、20 数本の油井が掘られたが、大正 12 年頃には中止された。また、中谷付近や滝の脇の南、700m 付近などに天然ガスの兆候が認められたが、実際に稼業までには至らなかった。

富倉の笹寿司：山の中ならではの食材を生かした独自の食文化が発達した。上杉謙信に関わる言い伝えは有名である。食における文化財として県に認定されている。

富倉そば：つなぎにオヤマボクチを使っており、風味が良くコシが強く、噛み応えがある。食における文化財として市に認定されている。

常盤地区

【下水沢】

野田喜左衛門翁碑：「ときわや」駐車場の隅に、平用水の水路を切り開いた翁の大きな碑がある。平用水の他には、市内では秋津の蓮せぎ、柳原の涌井せぎ、木島の根越せぎ等を切り開いたと伝わっている。



野田喜左衛門翁碑

石田家文書：石田家は、江戸時代に名主・問屋を務めるなど、戸狩村の有力な農民であった。飯山地方の江戸時代の農民生活や商業活動等を知る上で貴重な文書がたくさんある。市の有形文化財に指定されている。

【大塚】

古墳群：茶臼山をはじめ、付近に数十基もの古墳群があることから、大塚の地名の由来となっている。

【小泉】

写真集「未来につなげおらほのむら」：明治後期からの小泉区を記録に残すため、平成 16・17 年に実行委員会を組織し作成している。各戸 1 枚の写真を掲載している。

小泉遺跡群：長峰工業団地造成にともなって、昭和 63 年と平成元年に発掘調査を行った。その結果、遺跡は 10ha に及ぶ広大な範囲に分布し、県内でも有数の弥生時代遺跡であることが判明した。さらに、小丘陵ごとに数軒単位で居住していたものと推測される。また、居住域と離れたところに墓域があることから、貴重な資料となった。

西方寺：江戸後期の僧侶武田雲室からの書簡を屏風仕立てにしてある。市の有形文化財に指定されている。

【戸狩】

平用水：広井川に架かるおおかわ橋の西隣に、川と道路の上を用水路の樋が横切っている。

長峰神社：秋のお祭りでは、獅子が舞いながら歩く「道中舞い」が行われ、その後は、慶長年間に越後から伝わったとされる神楽獅子が奉納される。

光明寺：度々の水害のため、現在の地に移った。法然上人の尊像である寺の黒尊仏は、総本山知恩院の重宝であった。

成相寺跡：今は地震で壊れてしまって既にはないが、尾崎氏の祈願寺としての成相寺があった。ここに祀られていた観音菩薩



広井川救急排水機場の排水パイプ

像が、今は光明寺の境内の観音堂に祀られている。

広井川救急排水機場：千曲川の増水によって広井川の排水が困難になった時に、機械力で排水しようとするものである。江戸時代には、人々が幕府や領主に水防工事を願い出ても対応してくれない時は、「自普請」と言って、自分たちで治水工事を行い、洪水から村を守った。

【上野】

上野遺跡：上野丘陵（上野の森）上に広がる遺跡は大倉崎遺跡の北側にあたり、丘陵全体が遺跡と考えられている。調査の結果、約 12,000 年以上前から 500 年前までの大規模な集落が断続的に営まれていたことが分かった。出土品の土器・大倉崎館跡出土瓦質風炉（おおくらさきやかたあとしゅつどがしつふろ）は、市の有形文化財に指定されている。

【大倉崎】

常盤神社：市有形文化財指定の狛犬は室町時代中期の作と推定され、また、専門の彫刻師ではなく地域の信奉者が奉納したものと考えられている。

【柳新田】

地蔵尊：石仏の銘文に「八月二日数千人が流死、この所に埋めた」云々とある。1742 年 8 月県下を襲った「戌の満水」と言われた大洪水で犠牲になった人々の供養のために、柳新田の人たちが中心となって建立した。

【小沼】

常盤ごぼう：長野県の伝統野菜の一つである常盤ごぼうは、小沼ごぼうとも言われ、この地の名産ともなっている。生産者が徐々に減り、かつての生産量はなくなった。やさしいやわらかさで、やや甘みがある。

箒（ほうき）作り：冬場の農家の人たちの仕事として行われていた。現在は数名が作っているのみである。

さつまおどり：市の無形民俗文化財に指定されている。旧盆の時と小沼神社の祭礼の夜に踊られている。

外様地区

【中条】

滝清水：中条の上部に位置し、豊富な水量と不純物のない冷たい水は、集落内はもとより近隣からも多くの人が汲みに来る。

【尾崎】

三桜神社：神社の境内にあるブナは植栽したものではなく、ブナ林の中に神社を建てたものである。かつて飯山の平地にもブナ林があったことを示す貴重なものである。市の天然記念物に指定されている。

【顔戸】

黒岩山：ギフチョウとヒメギフチョウが同じ地域に棲息することや豊かな自然があることから、昭和 46 年に山自体が国の天然記念物に指定された。山頂付近には桂池や中古池などの池沼が散在する。モリアオガエルの棲息地であり、水芭蕉の群生地でもある。また、付近にはいくつもの湧水（箱清水、出口清水、腹薬清水等々）があり、地域住民の日々の生活を支える、誇れる水となっている。



中条の滝清水

信濃平スキー場：冬の出稼ぎをなくそうと地域住民が出資して昭和 38 年から営業を開始した。最盛期には 13 万人が訪れた。しかし、スキー客が減少し平成 13 年で閉鎖した。この間、冬場の地域経済を支えた力は大きかった。

太田地区

【小境】

飯山（デジタル）テレビ中継放送所：黒岩山からの峰続きにある鷹落山には、美ヶ原からの電波を受けるアンテナがある。入っている局は、NBS、TSB、ABN、SBC、NHK で、TV の電波は全て垂直偏波である。したがって、市内の各家庭で鷹落山を向くアンテナは全て垂直になっているはずである。サテライトの下は、ハンググライダーやパラグライダーの出発場所になっている。

【五束】

健御名方富命彦神別神社（たけみなかたとみのみことひこかみわけじんじゃ）：末社の若宮八幡神社本殿は室町時代中期以後の建築と推定され、国の重要文化財に指定されている。神社本殿と附属鰐口は重要美術品に認定されている。太々神楽（だいだいかぐら）は県の無形民俗文化財に指定されている。また、市では懸額、薙鎌、狛犬を有形文化財に、伊勢社を有形民俗文化財に、御柱を無形民俗文化財にそれぞれ指定している。



健御名方富命彦神別神社

双体道祖神：道祖神は市内に 8 基あるが、この双体道祖神は 1 基のみである。市の有形文化財に指定されている。

宝篋印塔（ほうきょういんとう）：室町時代の初頭で、市内最古の石像物である。この地に勢力を張った支配者が造ったと考えられており、市の有形文化財に指定されている。

【瀬木】

イチイ：この種の木では、健常木として市内最大である。市の天然記念物に指定されている。

殉難の碑：江戸時代の山野は生活の糧を得るのに大切な場所であり、その利用を巡ってはどこの地方でも村々の争いがあった。



宝篋印塔

た。瀬木の人々は江戸まで行って箱訴をしたが、逆に 17 名全員が重い罪を負わされてしまった。その供養の碑である。

※箱訴 八代将軍吉宗が庶民からの直訴を受けるために設けた制度。評定所前に目安箱を置いた。

【蕨野】

山田神社：2 本の大杉は、地元で大切にされているご神木である。昔はあったとされている木の室が今はないことなどから、現在も成長していることが分かる。市の天然記念物に指定されている。

妙林寺：三十三観音として、膝下くらいまでの大きさの観音様 45 基が拝殿への通路両側に並んでいる。

【今井】

今井伊勢社：天照皇大神をはじめとして、計 126 の石の祠がある。市の有形民俗文化財に指定されている。

【大深】

五輪塔：五輪塔は、中世においては主にその地の豪族など、支配階級の供養塔や墓石として造立されていた。これは室町時代前半、または南北朝時代に遡るものと考えられている。この地に残る古くからの地名や居館跡などから、歴史的に見て早くから開け豪族などが居住していた可能性は高く、この点で貴重であり、市の有形文化財に指定されている。



妙林寺の三十三観音

岡山地区

【温井】

森の家：グリーンツーリズムの拠点として、信越トレイルの設定を始め、様々な自然体験活動を実施している。

関田山脈の稜線に沿って総延長約 80 km の「信越トレイル」と呼ばれるトレッキングコースが開通している。

森太郎・森姫：見事なブナ林が鍋倉山の多くの部分を覆っている。その代表格となるのが、樹齢 400 年と言われる二本のブナの巨木である。かなり衰弱が進んでいるのは、ハイカーによって木の周りの土が踏み固められたためと言われている。登山道の入り口は、分かりにくくなっている。

旧温井小学校の大ケヤキ：推定樹齢 300 年と言われるケヤキで、校庭の隅にある。樹形・樹勢は共によい。

【羽広山・土倉・柄山】

みゆきのライン：鍋倉高原の山々や里山の景観を見ながら約 5 km にわたって続く。途中に架かっている橋は、通称鍋倉五橋と言ひ、鍋倉大橋、羽広大橋、土倉橋、柄山橋、藤沢大橋である。

熊野神社：柄山区熊野神社のご神木である。市の天然記念物に指定されており、石の祠の社である。

【桑名川】

東原遺跡：縄文時代の漁具として、石のオモリや軽石のウキが発掘された。恐らくは木のウキもたくさん作られただろ



熊野神社のケヤキ

うが、腐ってしまったのだらうと考えられている。

桑名川郵便局東側の千曲川辺りに広がる。

白山神社本殿：本殿は 1425 年室町時代初期の建築で、この地方で最も古い。中央文化の香りを色濃く伝えていると言われており、意匠的にも優れ建築様式上からも重要で、国の重要文化財に指定されている。

名立神社：岡山小学校の隣にある。例祭の宵祭りには、地域の子どもによる剣の舞が奉納される。桑名川の大祭として、市の無形民俗文化財に指定されている。

【西大滝】

エノキ：1604 年に領主の命令で植えられたという。豪雪地でこのような巨木は珍しく、市の天然記念物に指定されている。

馬頭観音像：馬頭観音は馬への供養に造る物であるが、これは交通安全などの願い事の対象になっている。なお、近くには石像が 7 基ある。

西大滝ダム：東京電力の発電用取水ダムで、ここから 21 km 下流の新潟県津南町の飯山線越後鹿渡駅近くにある信濃川発電所まで送水し、最大 18 万 KW 程の電力を発生させる。ダムの横にはサケ遡上のための魚道がある（写真下方）。



西大滝ダム

市全体

いもなます：ジャガイモの千切りを水でさらし、酢でシャキシャキ感を出したなますである。昔から、冠婚葬祭、行事等で作られており、日常の家庭でも作られている。食の文化財として市で認定されている。

えご：エゴ草に水を加えて煮溶かして固めたもので、昔から、海のない地方の人々にとっては保存のきく海の幸であった。食の文化財として市で認定されている。

からすおどり：北信一帯で踊られている。名称については、修験道ではヤタカラスを神の使いとしてきたことに拠っていると言われている。市の無形民俗文化財に指定されている。

参考文献・資料

- 飯山市誌 歴史編（上） 飯山市、飯山市誌編纂委員会（平成5年）
同 上 （下） 同 上 （平成7年）
同上 自然編 同 上 （平成3年）
- 飯山町誌 飯山公民館（昭和51年）
- 秋津村誌 秋津村誌編纂委員会（昭和41年）
- 木島村誌 木島村誌発刊委員会（昭和47年）
- 太田村史 太田村史刊行会（昭和29年）
- 村史ときわ 常盤村史刊行委員会（昭和43年）
- 新編瑞穂村誌 新編瑞穂村誌刊行会（昭和55年）
- 柳原村誌 飯山市公民館柳原分館（昭和45年）
- 岡山村史 飯山市公民館岡山支館（昭和36年）
- 雑誌『千曲川』（1～43号） 飯水教育会自然調査研究委員会（昭和43年～平成22年）
- ふるさと飯山の自然 飯山市教育委員会（平成13年）
- 飯山市の自然 飯山市教育委員会（平成10年）
- わたしたちのふるさと飯山市 小学校3・4年生用 社会科資料集 飯山市教育委員会（平成19年）
- 図説・北信濃の歴史（上・下巻） 郷土出版社（平成7年）
- 図説・奥信濃の歴史（上・下巻） 郷土出版社（平成7年）
- 正受老人を看よ 正受庵（昭和56年）
同 上 （児童生徒用） 正受庵
- 長野県史跡正受庵 正受庵担雪会（平成20年）
- みずほ宝物MAP 飯山市立東小学校（平成19年）
- 飯山市の文化財 ほおずき書籍株式会社（平成14年）
- 飯山市遺跡分布図 飯山市教育委員会（平成15年）
- 歴史の道調査報告書 XXIV 一富倉道一 長野県教育委員会（昭和63年）
- 学習資料 ふるさと富倉の古道と名所旧跡 飯山市公民館富倉分館（昭和63年）
- 飯山の文化財 飯山市教育委員会（昭和46年）
- 奥信濃有情 古田十一郎（平成元年）
- 語り部の語る ふるさと飯山 ほおずき書籍株式会社（昭和60年）
- 飯山風土記 一千曲辺の白い古都一 飯山市振興公社（平成4年）
- 飯山風土記 一信濃の宝石「いいやま」一 飯山市振興公社（平成15年）
- 実説 信州飯山騒動 飯山騒動刊行会（昭和47年）
- 北信濃の歴史 株式会社文献出版（昭和53年）